

433) 頭痛

3連休を前にしたある日、疲れがたまっていたせいか、朝からあまり体調が良くなかった。午後になると頭痛が激しくなって、ついにはこらえられなくなってしまった。3時頃、医務室に行くと、運の悪いことに連休前とあって結構混んでいる。仕方なくソファーに座って順番が来るのを待っていると、いつのまにかうとうととしてしまった。「山田さん！」と呼ばれて我に返ってみると、もう廻りはほとんど人影がない。それにしてもおれは何で、こんなところにいるのだろう。診察室に入ると女医さんが「どうなさいましたか？」と言う。かの藤原伊織先生も横恋慕したという、美人にして上品なあの奈良先生という女医さんである。ここに来て、えーと何しに来たんだっけ？とも言えないので、「イヤ~ちょっと風邪を引いて、熱っぽいんですよ。」と出任せを言うと先生は口を開けるの、熱を計るだのと色々と仰る。そうこうしているうちにそうだオレは頭痛がひどくて、ここに来たんだということを思い出したが、もう後の祭りである。先生の言われるままに風邪薬とウガイ薬をもらって、すごすごと引き上げることにいたしました。頭痛はといえば、うとうとして目が覚めたときには、もうすっかり直っていたのである。なんだ単なる寝不足だったんだ。